



演劇的手法を取り入れた授業に係る研修会より

平成29年度から全市展開しているコミュニケーション教育も今年度で9年目を迎えました。コミュニケーション教育の目的は「性別や年代を越えて対等な関係の中で自分を主張し、他者を理解できる基礎的なコミュニケーション能力の育成をめざす」ことです。

本市は2つの取組で「コミュニケーション教育」を展開しています。

1つ目の取組は、全ての学年、全ての授業でコミュニケーション能力を高める取組です。市が独自で作成した「コミュニケーション能力の視点とその留意点」や「活動例一覧表」を授業に活かし、4つの視点を大切にしながら授業改善を図っています。

2つ目の取組は、小学校6年と中学校1年で行う「演劇的手法を取り入れた授業」です。

学期に1回、それぞれ2時間から3時間、学級担任が指導案をもとに授業を行います。演劇を創る過程を通して、他者の意見を聴き、自分の意見も主張してすり合わせながら「合意形成」を図るプログラムとなっています。**演劇「を」学ぶのではなく、演劇「で」学びます。**

★年に9回、プロのファシリテーター（平田オリザ先生、田野邦彦先生）に実際授業をしていただき、先生方の研修の場としています。

【田野先生より】

今回は、【ジェスチャーゲーム：中1】の研修の紹介です！

本プログラムのねらい…価値観が違うことを前提に価値観の違いを感じたり合意形成したり

観察のポイント

する場を試す。個性的であることは良いことだと実感することが大切。

- ① 合意形成のプロセス…子どもの様子を観察する。子どもの変化を見取る。
- ② 第三者に向けての発表…子どもがどのように受け止められるかについて観察する。

➡ 後々に、見取ったことを、子どもに言語化し、意識化していく関わりが大切。

※全体、グループ、ペアでの活動において、主体性、協働性が発揮できているのか、表情、身振り、手ぶり等から読み取る。

※プログラムの内容について、少し難しいかも、少し背伸びしたら届きそうというレベルの内容を提供するとよい。

【質問1：盛り上げる部分等、問いかけや声掛けの仕方について】

➡起きている事実、指導者が捉えたことを言葉にすること。「この部分が良いと思った。」等
※見え方、伝え方については、工夫したらよいかもということは伝える。また、「自分にはこういう風に見えた」というように伝える。

【質問2：アドバイスの仕方について】

➡主体性があるがうまくいっていない場合は、ヒントやアイデアは提案する。
主体性がなくうまくいっていないグループがあった場合には、手助けしない。しっかり見取って、後の教育活動につなげていく。

【質問3：振り返りの内容について】

➡①試してみてどうだったかについて。②ほかの人の活躍について。チームに貢献した内容等。

